

当委員会が出された意見を基にした今後の方策

- ①メール便の重要性と今後の方策
⇒土日、祝日を含めたメール便運行の検討
- ②予約貸出の定着化と可能性
⇒利用者のアクセスポイント(本の受取や返却ができる場所)の検討
- ③非来館型図書館の可能性
⇒小・中・高生や高齢者のために、自宅に近寄るサービスの検討(本の宅配サービス等)
- ④市立図書館と学校図書館との連携
⇒ブックトーク、ビブリオバトルなどに加えて、市立図書館を使った調査探求的学習イベントの検討
- ⑤小・中・高生の図書館利用率の向上、高齢者の利便性を向上
⇒電子図書館の導入(小中高生には、ライトノベルやマンガ) ※ライトノベル…10代向けの娯楽小説
- ⑥図書資料の充実・強化
⇒調べ学習や、何人かで集まって利用する本の充実

当委員会が出された、これからの図書館の機能

- ①サービスを一つの図書館で行う場合は、最低でも床面積が400㎡必要。
- ②図書館らしさを保つには、床面積が、700㎡～1,000㎡必要。
- ③図書館の所在する地区内の利用者よりも当該地区以外の利用者(割合)が多い図書館が魅力のある図書館。
- ④自宅に居ながら又は小さなサロン(談話スペース)などで学び直しができる環境が必要。
- ⑤同じ本を揃えた図書館ではなく、特色ある図書館(蔵書)が必要。
- ⑥図書館は、小・中・高生から大人まで、静かに学習できるスペース(居場所)が必要。
- ⑦市民の活動や体験の場所、市民サークルが活動できる多目的なスペースや交流スペースが必要。
- ⑧駅に近く、中・高生が帰宅時に利用できる場所も必要。

これからの図書館に関する意見(令和3年度北杜市図書館司書WGでの意見) (参考)

図書館の現場から考えた、これからの図書館として大きく3つの意見がまとめられた。

1 調査探求的な施設の要素

- ①地域資料など歴史的資料の保存と活用
- ②専門書を主とする蔵書コレクションの構築
- ③専門的なレファレンスサービス
- ④静寂な学習環境の提供(下記2, 3にも該当する。)
- ⑤持ち込みで飲食できるスペースの併設(下記2, 3にも該当する。)
- ⑥市民の調査探求的成果を活用した事業の展開

2 多機能的な施設の要素

- ①一般書、児童書を主とするコレクション
- ②子育て支援(託児)や子育て世代向けの蔵書コレクション
- ③子ども図書館の機能を併設
- ④若年層の読書推進に係る事業の展開
- ⑤子育て支援機関と連携した事業の展開

3 市民活動の拠点的な施設の要素

- ①新聞、雑誌、民間データベースを主とする情報提供
- ②パソコン、インターネット環境の提供
- ③気軽に利用できる集会施設の提供

◇その他

- ①自動貸出機の導入(ICチップ)
- ②電子図書館の導入
- ③閉架書庫の確保
- ④総合支所や郵便局での貸出
- ⑤小・中・高との連携

※「レファレンスサービス」とは
利用者が知りたいことや聞きたいことを図書館職員に聞き、図書館資料やインターネットの情報を利用して回答するサービス。

※「蔵書コレクションの構築」とは
書籍等を選択、収集して計画的、組織的に蔵書を形成、蓄積、提供させていく行為。

※「民間データベース」とは
聞蔵(朝日新聞記事データベース)、日経テレコン21(日本経済新聞が提供するデータベース)等